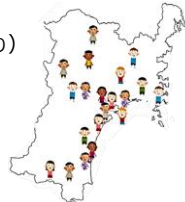




1. 本県を取り巻く状況

- 在留外国人の増加に伴って**外国人児童生徒**も増加
(下表：公立小・中・高等学校〔仙台市を含む〕学校基本調査より)

R1	R2	R3	R4	R5
239人	282人	379人	395人	449人



- 外国人児童生徒は各市町村に**点在し、多国籍化・多言語化**

2. 事業の概要

外国人児童生徒等への教育支援の充実を図る

- 県内の外国人児童生徒等の学習支援や学校支援
- 外国人児童生徒等の支援・指導に関わる担当教員等の資質向上

3. 事業の具体

市町村教育委員会・ 県立学校



- 特別の教育課程の編成
- 在籍学級での学習指導
- 別室での日本語指導
- 児童生徒の心のケア
- 保護者との連絡・面談等
- 日本語指導担当教員の指導面・メンタル面でのサポート など

派遣依頼

派遣

宮城県国際化協会（MIA）

- 学校への**アドバイザー派遣**
- 児童生徒への**サポーター派遣**
- 授業時間外の**オンライン学習支援**
- 保護者とのやり取りの支援

連絡調整

業務委託

情報共有

宮城県教育委員会

- 事業の企画・運営
- 外国人児童生徒等の支援に関する研修会**の開催（大学教授等による講演・研修）
- 連絡会議**の開催

4. 学校現場の困り感に応じた事業の活用例



- ★ 特別の教育課程の編成のポイントが分からない…
- ★ 日本語指導といっても、言葉が通じない…

→ 特別の教育課程編成や、児童生徒の母語が話せなくてもできる日本語指導について、**アドバイザーが具体的に助言**

- ★ 各教科の授業の中では、日本語指導はなかなかできない…
- ★ 日本語の能力がさまざまで、一斉指導ができない…

→ 加配教員と一緒に、**サポーターが別室で個別指導**

- ★ 保護者との意思疎通が難しい…

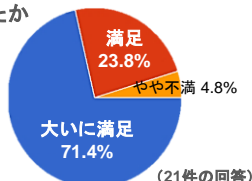
→ 面談の日など、**サポーターが会話を支援**



5. 本事業を活用した学校の声

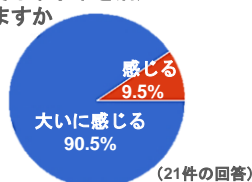
※本事業事後アンケート調査結果より（R5.3月 県調査）

- ① 本事業を活用してみたいか



(21件の回答)

- ② 次年度も本事業を活用したいと感じますか



(21件の回答)

- ③ ※自由記述欄より

生徒の**理解度**が大きく向上してきた

生徒が**生き生きと学習**に取り組むことができた

外国人生徒が**安心して過ごす**ことができています

担任とサポーターが**どのよう**に連携すればよいかわかるようになった

日本語能力について**客観的に知る**ことができた



どこに困難を抱えているのか、**生徒の困り感に気付く**ことができた

アドバイザーの助言で**生徒の特性等**に**気付く**ことができた

生徒を**多面的に受容**することができるようになった

職員の**不安や負担が軽減**された

6. 今後の見通し

